

地理歴史科（地理総合）学習指導案

1 単元名 世界各地の生活文化

「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」

2 単元目標

- (1) 衣食住に代表される現代の生活文化が、自然環境を基盤にした伝統的な生活文化の基に成立し、社会や経済の発展によって変化していることを理解する。
- (2) 世界の各地域に見られる生活文化を、自然・社会・経済・開発の側面からとらえ、生活文化の成り立ちや、生活文化の変化について考察する。

3 単元計画(全体12時間)

(1) 指導計画

- ・水の恵みと生活文化～南アジア 3時間
- ・イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏 3時間(本時 1/3)
- ・経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国 3時間
- ・土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ 3時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世界の各地域の生活文化を、気候や地形などの自然的条件と、社会や経済、開発などの社会的条件から捉える。その際に、主題図を読み取り、資料を比較してそれぞれの生活文化の特徴を理解している。	・社会や経済の発展が人々の生活文化に与えた影響を学び、そこで起きた課題や取組などを多面的・多角的に考察、表現している。	・世界の各地域で起きている課題は、相互に関連しているという視点にたち、なおかつ自分事として捉えることによって、よりよい社会の実現を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準	評価方法
			知	思	態	(C) 具体的支援	
第1次 (3)	・河川による恵みと生活文化～南アジア	【ねらい】河川を中心とした自然環境が、南アジアの農業・産業・食文化に与えた影響を理解する。 ・水と宗教・農業・食文化との関わりを考察する。		●	●	(B) ワークシートの問いに対し、「水」とのつながりのあるものを選択している。 (C) 個別に助言する。	・ワークシート
			【学習課題】<単元を貫く問い>「各地域の生活文化と自然的条件・社会的条件にはどのような関わりがあるだろうか」 【学習課題】<本時の問い>「河川を中心とした自然環境は、産業や文化にどのような影響を与えただろうか」				
第2次 (3)	・イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏	【ねらい】乾燥地域での生活文化とイスラーム社会の関わりを理解する。 ・エネルギー資源の恩恵による生活文化の変化を考察する。 ・イスラームの社会と文化を理解する。 ・オイルマネーを考える。	●	○		5 (1) 参照 5 (2) 参照	・ワークシート
			【学習課題】<本時の問い>「オイルマネーによる経済格差はどのように解消できるだろうか」 【学習課題】<本時の問い>「地域紛争の背景としての、民族や宗教・宗派の違いは何だろうか」 【ねらい】パレスチナ難民など世界最大の難民発生地域であることを理解し、地域紛争の根本原因を考える。 ・地域紛争を歴史・民族・宗教などの背景から理解する。				

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第3次 (3)	・経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国	【ねらい】 産業の発達と変化や交通網の発達による一体化が生活文化に与えた影響を考える。 ・資料を活用しヨーロッパの資源の産地や工業の発展地域がどのように移動したかを理解する。	○			(B) ワークシートに設定された題に沿って記述している。	・ワークシート
		【ねらい】 ユーロッパがEUとして統合を進める背景を理解し、EU内での統合の進展と課題について考察する。 ・EUによる政治的・経済的統合のメリットとデメリットについて考察する。		○	●		(B) EU加盟によるメリット・デメリットについて記述している。
第4次 (3)	・土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	【ねらい】 モノカルチャー経済による経済的不安定さや貧困から抜け出せない国があることを理解する。 ・資料を基にラテンアメリカの主な輸出品目に着目し産業構造を理解する。	○		○	(B) 資料からどのような産業が中心か読み取ることができ、その特徴をとらえている。 (B) 単元を振り返り、学習の成果をまとめている。	・ワークシート

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 乾燥地域で成立した農牧業を背景とした生活文化と、イスラーム社会の関わりについて、地図や写真などの資料を基に理解する。

イ 豊富なオイルマネーによる経済発展により生活文化がどのように変化したのか、イスラームにおける金融取引の独特な仕組みとともに考察する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・イスラーム社会の多様性	2枚の写真を比べて、気付いたことを記述する。	・着目する視点を助言する。
展開①	・乾燥地域の自然と生活 ・イスラームのひろがり と社会	・資料を基に、灌漑農業地域の特徴をまとめる。 ・動画を活用してイスラームの基本的知識を確認する。 ・既習内容を基に乾燥気候での生活を理解する。	・イスラームのひろがりについて触れる。 ●ワークシートの記述【知】 ○評価問題①【思】
展開②	・経済発展とイスラーム社会の変化	・GDPが高い国は産油国に多いことに気付く。 ・オイルマネーによる生活の変化について理解する。 ・産油国が石油や天然ガスが枯渇した後も経済的繁栄を続けるために、今、何をすべきかを考える。	・「世俗化」というイメージのしにくい用語について確認させる。 ○評価問題②【思】
まとめ	・まとめと予告	学習課題のまとめと、次回の授業でイスラーム圏での現状と課題につながっていくことを確認する。	

(3) 本時の評価規準 5 (1) (2) 参照

5 評価問題(評価材料)及び評価規準

(1) 評価問題①の評価規準【思考・判断・表現】

灌漑農業が広がっている地域の特徴を理解している。

評価問題①の内容

・灌漑農業が広がっている地域にはどのような特徴があるのだろうか。
評価問題①の判断基準
「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・水が得やすい地域であることに気付き、その記述をしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・外来河川の名称や、地下水路の利用など灌漑の方法に触れながら記述している。
「努力を要する」状況(C)と判断される例とその生徒への支援
・灌漑農業の特徴について記述できない。→ 気候の特徴や灌漑農業について、再度確認させる。

(2) 評価問題②の評価基準【思考・判断・表現】

経済水準の違う国を比較して、格差の解決策を考えている。

評価問題②の内容

・産油国が石油や天然ガスが枯渇した後も経済的繁栄を続けるために、今、何をすべきかを考察することができる。
評価問題②の判断規準
「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・現在の産油国の取組の例を挙げながら説明している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・現在の産油国の取組の例を複数、挙げながら、多角的に説明している。
「努力を要する」状況(C)と判断される例とその生徒への支援
・(B)が達成されていない。→ すでに産油国が取り組んでいることに着目して考えるように促す。

6 成果と課題

(1) 成果

1人1台端末が実現し、調べ学習の行いやすい環境が整ったため、2枚の写真の違いを見て、どのような違いがあるか考えさせた。女性の服装の違いに気付くことのできる生徒が多く、イスラームの戒律を厳格に守るかは、地域や国によって異なることに気付いた生徒が多くいた。

3分程度の動画を視聴し、イスラームについての基礎的知識の復習を行った。「ムハンマド」「コーラン」という用語については、中学までの学習で定着していたが、「五行」の内容や戒律については、動画の視聴や教科書を参考にしている生徒が多かった。授業を進める際に、生徒の知識の定着度が重要な要素となってくるので、復習を行うことは取組としてはよかったと思う。

タブレット端末を使用した調べ学習では、中東の国の中からGDPの高い国と低い国を生徒が任意に選んで調べた。GDPの高い国については、サッカーワールドカップの関心も高いことからカタールを選ぶ生徒が最も多かった。次いで、サウジアラビアやアラブ首長国連邦などが挙がり、これらの国は石油や天然ガスといった資源に恵まれている国が多いことに気付いた。政治制度や人権問題といった、豊かさとは別にある問題にまで言及した生徒は少なかった。

最後に行った、産油国が石油や天然ガスが枯渇した後も経済的繁栄を続けるために、今、何をすべきか、という問いかけを通して、アラブ首長国連邦などが観光産業に力を入れるなど、地下資源に頼らない経済の体制作りに取り組んでいることに生徒たちは気付くことができた。

(2) 課題

今後の「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、タブレット等のICTを積極的に使用していきたいが、タブレットを使用した調べ学習は、個々の活動になるので、生徒は真面目に取り組む一方で、活発な意見交換や、生徒の取組内容が見えにくいという点があった。

授業の最後に、石油や天然ガスが枯渇した後も経済的繁栄を続けるために、今、国は何をすべきか、という問いを考えたが、ほとんどの生徒が授業の目標に到達する内容をまとめていた。しかし、タブレット端末での検索で入力したキーワードによって得られた結果を基に生徒は記述しているので、収集した情報を基に思考したことを表現するのではなく、検索した情報を単に文章でまとめたという生徒が多かったであろう。教師の導き方を工夫していかないと、本来の意味での思考・判断という学習活動から逸れてし

もう可能性があると感じた。

7 参考文献

- ・「世界のさまざまな地域をみてみよう～西アジアと中央アジア～」(NHK高校講座地理第31回現代世界の地誌的考察【現代世界の諸地域】編)
<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/chiri/archive/chapter031.html>
- ・教科書『地理総合』(二宮書店)
- ・副教材『地理総合ワークブック』(二宮書店)
- ・副教材『新詳高等地図』(帝国書院)